ふるさとの自然 56

空高く浮かぶ トビ

○自然界の掃除屋

タカというと強くてかっこいいというイメージがあります。トビもれっきとしたタカの仲間ですが、あまり良いイメージは持たれていないようです。トビは体全体が濃い茶色で、幅の広い翼を広げて空高く浮かび、地上の餌を探します。開いた尾が三味線のばちのような形をしているので、ほかのタカと見分けられます。「ピーヒョロロー」という鳴き声も特徴です。

トビは雑食で動物の死骸なども食べるので、自然界の掃除屋と言えます。しかし観光地では、観光客の弁当を狙うトビもいるそうです。

○市内にも進出

県内では南房総の漁港などで多く見掛けます。同じ漁港のある銚子ではほとんど見られず、不思議に思っていました。ところが近ごろ、冬の干潟八万石の田んぼなどで、数羽のトビが電柱に止まったり田んぼに降りたりする姿を見掛けるようになりました。分布が広がってきたようです。冬には同じ場所にハヤブサ、チョウゲンボウ、ノスリなどのタカもやってきます。

（旭市文化財審議会委員　齊藤敏一）